



新世紀のキャンパス

Campus of New Century

東洋大学 125周年記念館

創立者の井上円了が造った哲学堂公園に残る「哲理門」をイメージした125周年記念館。



白山キャンパスの玄関口に、高さ38m、建築面積約3515㎡の巨大なランドマークが誕生した。

外に開かれた大学を象徴する透明感のあるアトリウム。





渡り廊下から見る125記念ホールは、宙に浮いているような印象を受ける。

2012年11月に創立125周年を迎えた東洋大学。法人が設置する幼稚園から大学院までを網羅した「総合学園計画」を実行中だ。この計画の柱に、「大学機能の都市部への移転・集中」が掲げられている。2005年から文京区白山キャンパスへ都心回帰を始めたが、2009年に国際地域学部・大学院を群馬県板倉キャンパスから白山第2キャンパスに移転した頃から計画が加速した。2010年に北区赤羽台に新キャンパス用地を取得。翌年、白山キャンパスに隣接する学校法人京北学園と法人合併し、京北学園を赤羽台に移転。翌年、この跡地に125周年記念館を建設した。今年4月には、白山第2キャンパスの国際地域学部・大学院と法科大学院が、白山キャンパスにおいて教育研究活動を開始し

た。白山に2000名以上の学生が増加するため、白山キャンパスを再構築し、既存建物もリニューアル。附属図書館やPC教室を整備した。125周年記念館は、次の時代に向けた「研究開発」「国際化」「交流・発信」の3つの機能を担う“知の拠点”と位置づけられている。地下1F、地上8階建ての館内には、8Fと1Fに大学事務局、7Fに125記念ホールや研究センター、3F～7Fに研究室、2Fに国際関連部署、地下1Fに食堂と500人教室が配置された。国際地域学部・大学院の移転で、国際化の環境も整った。2Fの国際フロアには、国際関係の事務局「国際部」、英語だけの会話エリア「ECZ(English Community Zone)」、海外提携大学から派遣されたネイティブ教員がハイレベルの英語授

業を行う「SCATオフィス」、海外インターンシッププログラムを実施する「グローバル・キャリア教育センター」が設置されている。国際化は句のテーマで、英語のみのエリアを作る例はあるが、利用者が限られる場合が多い。ECZはもともと国際地域学部にあったが、白山移転を機に体制を変え、全学部対象とした。さらに常駐スタッフとして、長期アルバイトに留学経験者の学生6人を採用し、外国人英会話スタッフのサポートを受けながら、入室に躊躇する学生への声かけ、イベント企画などを行う仕組みを作っている。利用者は1年生が7割で、移転前より活動が活発化し、参加者も大幅に増えたという。国際化の次のステージに今後も注目したい。
(本紙 能地泰代)



リラックスした雰囲気の中で英会話を楽しむための「イングリッシュ・コミュニティ・ゾーン(ECZ)の中では英語が公用語。



学生食堂と隣り合わせの500人教室。シンポジウムの後にパーティー会場へ移動といった使い方もできる。

「伝説の三丁目食堂」と名づけられた学生食堂。月替わりのご当地グルメ「故郷定食」が楽しめる。

